【長沼町】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

長沼町では、１人１台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等の効果的な活用を通じて、児童生徒を主語にした抜本的な授業改善を図ることにより、自立した学習者の育成を目指す。

そのためには、児童生徒が自分のペースで学習を進めるなどの「個別最適な学び」と、学びの孤立を防ぎ友達と多様な考え方や学び方を交流しながら学習を進めるなどの「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりの視点が重要になると考える。

また、児童生徒が自立した学習者となるためには、学習内容の指導に加え、学び方の指導が必要であり、「課題の設定、情報・収集、整理・分析、まとめ・表現」といった探究的な学習の過程を一人一人の児童生徒に身に付けさせることが大切であると考える。

２．GIGA第１期の総括

GIGA第１期では、端末としてiPadを児童生徒及び教職員に整備するとともに、各学校に帯域1Gbps(理論値)の無線LAN環境を整備するほか、普通教室に大型テレビを配備した。

このような中、町内の小・中学校においてはロイロノートを導入し、校内研修において各教科等での活用方法を共有するとともに、日常の授業で積極的に活用してきた。また、校務支援システムを活用し、校務の効率化を通じて児童生徒と向き合う時間を確保するとともに、学校の働き方改革に取り組んできた。

なお、令和６年度全国学力・学習状況調査の結果によると、当町の前年度におけるＩＣＴ機器の活用状況は次のとおりとなっている。

〇教員のＩＣＴ機器の活用等

質　問	小学校	中学校
教員が大型提示装置等のＩＣＴ機器を活用した授業を１クラス当たりどの程度行ったか。	ほぼ毎日	ほぼ毎日
教員がコンピュータなどのＩＣＴ機器の使い方を学ぶための必要な研修機会があるか。	ある	ある
コンピュータなどのＩＣＴ機器の活用に関して、学校内外において十分なサポートが受けられているか。	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思う

〇授業におけるＩＣＴ機器の活用の頻度

質　問	小学校	中学校
児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用したか。	ほぼ毎日	ほぼ毎日

〇授業の場面におけるＩＣＴ機器の活用

質　問	小学校	中学校
児童生徒が自分で調べる場面	ほぼ毎日	ほぼ毎日
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面	ほぼ毎日	ほぼ毎日
教職員が児童生徒とやりとりする場面	ほぼ毎日	ほぼ毎日
児童生徒同士がやりとりする場面	ほぼ毎日	ほぼ毎日
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面	週１回以上	週１回以上

〇ＩＣＴ機器の授業以外での活用

質　問	小学校	中学校
ＩＣＴ機器を使って児童生徒が学校外の施設にいる人々とやり取りする取組をどの程度実施したか。	３か月に１回以上	６か月に１回以上
教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、ＩＣＴ機器をどの程度活用しているか。	どちらかといえば、活用	どちらかといえば、活用
児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットを、どの程度家庭で利用できるようにしているか。	毎日持ち帰り時々利用	毎日持ち帰り毎日利用

〇ＩＣＴ機器を活用した学びの保障

質　問	小学校	中学校
不登校児童生徒に対する学習活動等の支援	月１回以上	月１回以上
希望する不登校児童生徒に対する授業配信	（該当なし）	（該当なし）
特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援	ほぼ毎日	ほぼ毎日
外国人児童生徒に対する学習活動等の支援	（該当なし）	（該当なし）
児童生徒の心身の状況の把握	週１回以上	活用せず
児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援	（該当なし）	活用せず
障害のある児童生徒がＩＣＴ機器を活用する際、入出力支援装置を活用した支援をどの程度行ったか。	どちらかといえば、行った	どちらかといえば、行った

こうした状況を踏まえ、国が示した「教育ＤＸに係る当面のＫＰＩ」を参考に町内小・中学校の目標指標を設定し、ＩＣＴ機器のより一層の活用を進めることが必要である。

３．１人１台端末の利活用方策

令和６年度においては、文部科学省のリーディングＤＸスクール事業の指定を受け、先進校の視察や外部講師による講演会等を通じて、先進事例に学びながら授業や研修、校務のＤＸ化に取り組むとともに、成果や課題を管内・道内に向けて発信している。

今後においても、１人１台端末とクラウド環境を効果的に活用し、各教科等において学習の基盤となる情報活用能力の育成を図るとともに、各教科等の学習に「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」の探究的な学習の過程を取り入れ、児童生徒のペースで学習を進める授業への転換に取り組み、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

その際、他者参照を取り入れ、個別の学びが孤立した学びにならないよう留意するとともに、他者参照を通じて学びに向かう姿勢を学級全体で高めることができるよう取り組む。

また、不登校児童生徒や外国人児童生徒、障害のある児童生徒等、特別な配慮を必要とする児童生徒に対し、本人や保護者の意向を確認しつつ、授業への参加や端末を活用した支援などの学びの保障を積極的に行う。

なお、学校ＤＸの推進に当たっては、引き続き、小・中学校ともにコアチームを中心とした推進体制を整備するとともに、小・中学校が連携して学校ＤＸの実践を構築するほか、長沼町小中一貫教育合同研修会の機会を活用して町内の全教職員で取組状況の共有を図る。